

令和3年度ポリファーマシー研修会 参加者及びアンケート結果まとめ

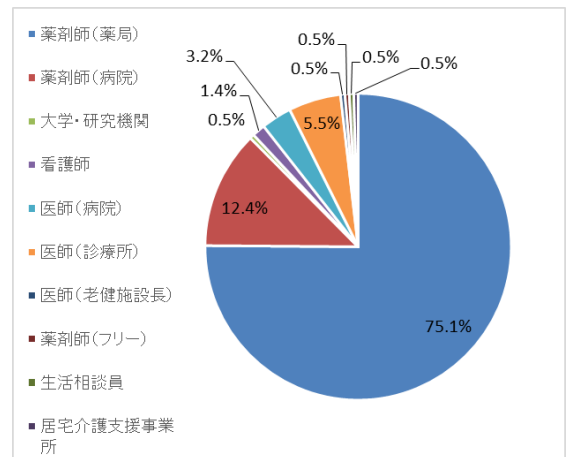
1 参加者について (265名)

	参加者	構成割合	申込者	出席率
医師	27	10.2%	37	73%
薬剤師	228	86.0%	274	83%
看護師	5	1.9%	6	83%
介護福祉士	1	0.4%	1	100%
事務員	1	0.4%	2	50%
生活相談員	2	0.8%	2	50%
介護支援専門員	1	0.4%	1	100%
	265	100.0%	323	82%

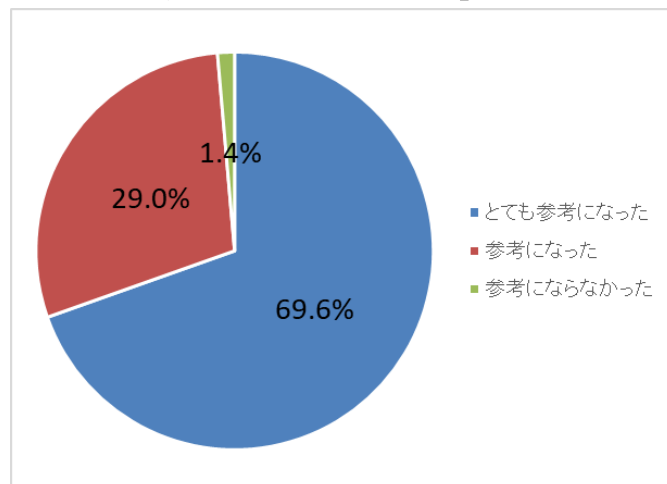
2 アンケート結果について (アンケート回収率 : 81.9% (回答者数 : 217名))

質問1 職種(勤務先)について(n=217)

	人数	割合
医師(病院)	7	3.2%
医師(診療所)	12	5.5%
医師(老健施設長)	1	0.5%
薬剤師(薬局)	163	75.1%
薬剤師(病院)	27	12.4%
薬剤師(フリー)	1	0.5%
看護師	3	1.4%
生活相談員	1	0.5%
居宅介護支援事業所	1	0.5%
大学・研究機関	1	0.5%

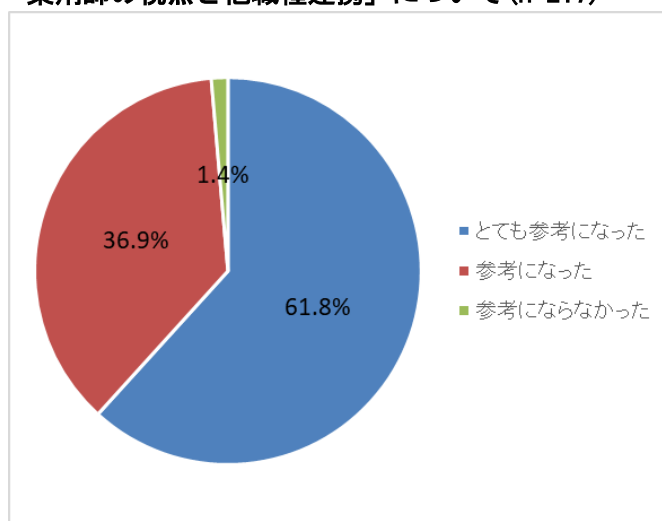


質問2 講演1「症例から考えるポリファーマシー」について(n=217)



	とても参考になった	参考になった	参考にならなかった
医師（病院）	28.6%	71.4%	
医師（診療所）	33.3%	41.7%	25.0%
医師（老健施設長）		100.0%	
薬剤師（薬局）	63.0%	37.0%	
薬剤師（病院）	75.5%	24.5%	
薬剤師（フリー）	100.0%		
看護師	66.7%	33.3%	
生活相談員		100.0%	
居宅介護支援事業所	100.0%		
大学・研究機関	100.0%		

質問3 講演2「薬剤師の視点と他職種連携」について (n=217)



	とても参考になった	参考になった	参考にならなかった
医師（病院）	28.6%	71.4%	
医師（診療所）	16.7%	58.3%	25.0%
医師（老健施設長）		100.0%	
薬剤師（薬局）	51.9%	48.1%	
薬剤師（病院）	68.1%	31.9%	
薬剤師（フリー）	100.0%		
看護師	66.7%	33.3%	
生活相談員		100.0%	
居宅介護支援事業所	100.0%		
大学・研究機関	100.0%		

質問4 今後、ポリファーマシー研修会で聴講してみたい講師・内容について

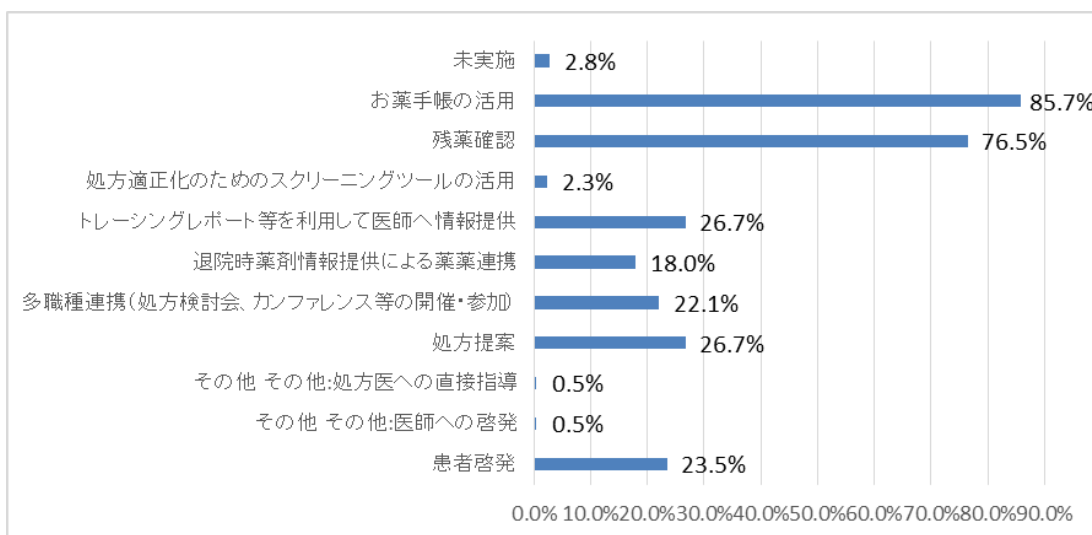
【テーマ】

- ・ 具体例や症例、不適切処方の原因など(医師、薬剤師の立場から)【11】
- ・ 精神科や整形外科など、特定診療科のポリファーマシー【3】
- ・ 嚥下障害や肝機能とポリファーマシーの関係【2】
- ・ トレーシングレポートの使い方、活用方法【2】
- ・ 在宅医療【2】

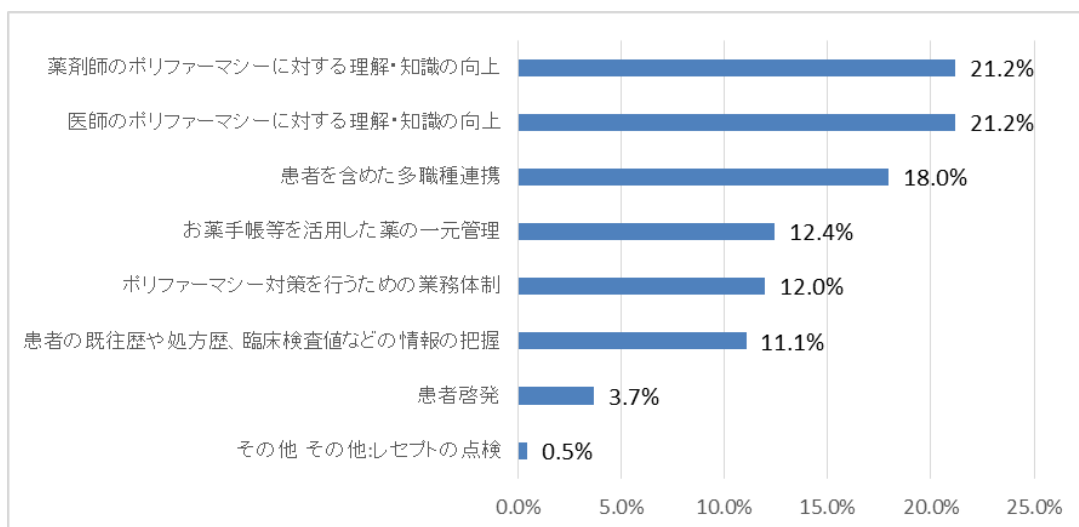
【講師】

- ・ 神村先生、川添先生、青島先生
- ・ 医師のお話を聞きたい。

質問5 職場でのポリファーマシーに関する取組状況(n=217、複数回答可)



質問6 ポリファーマシーの取組促進に特に必要だと思うこと(n=217)



来年度に向けて

○ 開催方法について

- ・ 今年度は完全 WEB (Live 配信) 方式で実施したところ、参加者数は昨年度とほぼ同数であり、オンライン研修会へ参加する環境はある程度整っている状況と思われる。また、音声、映像の不具合に関する情報も寄せられていない。
- ・ 研修会当日の質疑応答は挙手による発言 (音声) による質問とテキストメッセージによる質問の両方を受け付けたが、質問件数は少なく、運営側と参加者側双方の要因が考えられる。
- ・ 活発な意見交換を図るため、可能な限り実開催とするほうがよい。

○ テーマ及び講師について

- ・ 薬局薬剤師からは具体的な事例を取り上げてほしいという要望が多く、医師や病院薬剤師からは特定診療科や嚥下障害、肝機能とポリファーマシーの関係など、特定領域における知識を深める内容を要望する声が散見された。
- ・ ポリファーマシーに関するより深い知識の学習機会は日本老年薬学会の動画コンテンツやワークショップなどで提供されているため、本研修会では、ポリファーマシーに関する基礎的、代表的な内容を学習できる機会を提供し、興味、関心をもってもらうようなテーマがよい。
- ・ 講演の内容においては、上記を踏まえつつ、典型的な処方カスケードや多用されている P I M s を例にとり、起こりうる有害事象や処方適正化の具体的なアプローチ方法、判断に資するエビデンスなどを組み込むことも検討したい。

○ 参加者について

- ・ 昨年度に引き続き県医師会と連携した研修会 (後援、単位取得研修) としたことで、27 名の医師の参加があった。来年度も引き続き、県医師会と連携して開催すると良いと考える。
- ・ 福岡県老人福祉施設協議会にも周知を依頼したところ、生活支援相談員や介護支援専門員、老健医師、施設看護師などの参加も少ないながらあった。テーマに応じて周知をするとよい。
- ・ 昨年度に引き続き土曜日午後 (14 時 30 分) からの開催であり、参加しやすい日程であったと思われる。

令和3年度

ポリファーマシー研修会

ポリファーマシー対応～症例を通して考える～

参加
無料

2021年

日時

11月27日（土）
14:30～16:30第
1
部

14:35～15:30

「症例から考えるポリファーマシー」

講師 北和也 氏

（医療法人やわらぎ会やわらぎクリニック院長）

第
2
部

15:30～16:25

「薬剤師の視点と他職種連携」

講師 佐野敦彦 氏

（田辺薬局株式会社キャリア支援室・昭和大学薬学部 客員講師）



配信 Zoomによるオンラインウェビナー

【申込フォーム】

申込 【受付期間】2021年10月18日（月）～11月21日（日）

【申込方法】参加希望者様ごとに申込フォームからお申込みください。

ポリファーマシー研修会

URL <https://www.shinsei.elg-front.jp/fukuoka/uketsuke/form.do?acs=PolyPharmacyR3>

単位 公益財団法人日本薬剤師研修センター 研修単位取得可能（1単位）

公益社団法人日本医師会 生涯教育制度単位取得可能（カリキュラムコード：10（0.5単位）、12（0.5単位））

共催 福岡県保健医療介護部薬務課・公益社団法人福岡県薬剤師会 後援 公益社団法人福岡県医師会

質問1 勤務先(所属)を御記入ください。

必須

- 医師(病院)
- 医師(診療所)
- 薬剤師(薬局)
- 薬剤師(病院)
- 看護師
- 介護福祉士
- 大学・研究機関
- 行政機関
- 事務
- その他

「その他」を選択された場合にご記入ください。

質問2 講演1「症例から考えるポリファーマシー」について

必須

- とても参考になった
- 参考になった
- 参考にならなかった

質問3 講演2「薬剤師の視点と他職種連携」について

必須

- とても参考になった
- 参考になった
- 参考にならなかった

質問4 今後、ポリファーマシーに関する研修会で聴講してみたい講師・内容があれば記載してください。

質問5 勤務している職場において、ポリファーマシーに関して、どのような取り組みを行っていますか。(複数回答可)

必須

- お薬手帳の活用
- トレーシングレポート等を利用して医師へ情報提供、処方提案
- 退院時薬剤情報提供による薬薬連携
- 残薬確認
- 多職種連携(処方検討会、カンファレンス等の開催・参加)
- 患者啓発
- 処方適正化のためのスクリーニングツールの活用
- 未実施
- その他

「その他」を選択された場合にご記入ください。

質問6 ポリファーマシーに関する取組促進に特に必要だと思うことを、1つご記入

ください。

必須

- ポリファーマシー対策を行うための業務体制
- 患者を含めた多職種連携
- お薬手帳等を活用した薬の一元管理
- 患者の既往歴や処方歴、臨床検査値などの情報の把握
- 医師のポリファーマシーに対する理解・知識の向上
- 薬剤師のポリファーマシーに対する理解・知識の向上
- 患者啓発
- その他

「その他」を選択された場合にご記入ください。